

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1カ年1,300円
(1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

東本願寺公式YouTubeにて
さまざまな行事の様子を
公開しています。



東本願寺NEWS

検索

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

6

Vol. 799
June 2024



能登半島地震によって地盤隆起した海岸(輪島市門前町黒島地区)

北前船の船員の居住地として栄えた石川県輪島市門前町黒島地区。地震による地盤隆起によって黒島漁港に海水がなくなり、海底だった部分が見えている。

今月の写真

今月の法話 如是我聞

によぜがもん

念仏のよろこび

山陽教区第7組光明寺

梶原敬一(68)

真宗の救いは、念仏を申すことによつて浄土に往生することです。でも、その浄土は死後の世界だけを言っているわけではありません。その浄土からの光は、今ここを生きている私たちを包み、浄土の世界に向かって生きること、励ましています。念仏のよろこびはその光を身に受けとめた喜びを表すものなのです。その念仏を申すことを称名念仏といいますが、称名は名に称うということ、それは阿弥陀仏の名を呼ぶこととその名を聞くことが一つになることを表しています。

阿弥陀仏の名を呼ぶのは救いを求める衆生だけではありません。衆生を救うこととは何かを阿弥陀仏の誓願によって知った諸仏もまたその名を呼び讃えています。

この、衆生の救いを求める声と諸仏の讃嘆の声が阿弥陀仏の名を介して響き合っているのです。その響きを聞くことを聞名といいますが、念仏によつてその響きを受けとめる時、衆生はいのちを自覚し、新たな人生に向かって歩み出すことができるのです。それが念仏の喜びです。親鸞聖人は、そのことを「行の一念」、「信の一念」と言われているのです。

CONTENTS

人間といういのちの相

被災地に生きる
医師として

大石賢齊さん



4面

通信員リレーレポート

現在を生きる 第248回

縁―お寺の掲示板― 第11回

5面

ひかりを伝えたひと

―七高僧と聖徳太子 第6回

6面

令和6年

能登半島地震

〜発生から半年、被災地の思い〜



令和6年能登半島地震で被害に遭われました被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます

「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思ひます。

人間という いのちの 相

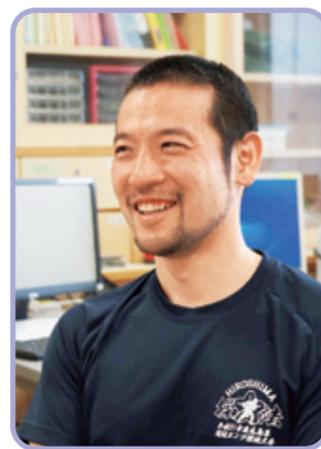
連載
すがた



被災地に生きる医師として

インタビュー
大石賢斉さん

1月1日に発生した能登半島地震は、能登半島を中心に甚大な被害を与えました。地震発生時、被災地で人はどのように行動し、支え合い、そして何に苦しみ悲しんだのか。地震直後、一時孤立集落となった輪島市町野町地区唯一の開業医で、病院が全壊しながらも診療を続けておられる大石賢斉さんのお話から人間の相を考えます。



滋賀県出身。北海道の大学を卒業後、関西各地で勤務医を経験。2015年4月から石川県輪島市町野町地区の唯一の開業医として粟倉医院の院長をつとめている。

震度7の揺れに襲われて

——大石さんはどのような経緯で輪島市へ移住されたのですか。

輪島に移住したのは9年前です。当時、僕は滋賀県の彦根の病院で外科医として働いていました。しかし輪島で医師をしていた父の病状がだんだんと悪くなり、このまま父が診療所を続けていくのは難しいと感じました。そして、父が診療所をできなくなった時、この輪島市町野町という地区から医療がなくなってしまうと思いました。

そうならないためには、誰かが後を継いで、診療所を続ける必要がある。それがもし僕だった場合、彦根の病院から外科医が1人いなくなるけど、誰かが補充されて来れば、これまでどおり診療を続けられる。輪島に来て、0を1にする方が僕の力を有効に使えると感じ、こちらに来ることを決めました。僕が輪島に来る

前に父は亡くなってしまったので、父と一緒に仕事をしたことはなく、父がどのようなビジョンで仕事をしていたのかを聞いたことがありません。しかし、何を思っていたのかと頭の片隅で考えながら、その時々で自分に何ができるのかを感じながらやっていけばいいかと思ひ、ここでの診療をスタートしました。

——大石さんは地震が発生した1月1日はどのような状況だったのでしょうか。

あの日は、最初に震度5の地震がありました。その時は僕は、参加していたマラソン大会が終わり、近くの施設でくつろいでいました。大きな揺れだったのですが、昨年5月に経験した地震の揺れに比べれば、それほどひどいことにはならないだろうという感覚でした。それでも、家が気になり、自宅へ帰ろう

と建物の外に出かけた時に、震度7の揺れが始まったのです。それはこれまで経験したことのない圧倒的な揺れで、握っていたドアノブを離したら、吹っ飛ばされるんじゃないかと思うほどでした。

揺れが少し弱くなった時に、外の駐車場へ駆け出すと、すぐに震度7の2回目の揺れが来ました。その時は、建物の外に出て周りが見える状況だったので、付近の家がぐしゃぐしゃと倒れていくのを目の当たりにしました。遠くの方でも砂ぼこりが上がっている。これはえらいことになったぞと思ひました。でも、自分の周りに何か落ちてきているわけでもなかった。自身は案外冷静でした。

そして、とにかく自宅に戻って、家屋がどうなっているか確認したいと思ひ、車で自宅に向かったのですが、道路には亀裂がそこら中に入り、電線も垂れ下がっている状況でした。また、家の外に逃げられた人は、道路の縁石に座ったり、立ち尽くしたりして自分の家が壊れているのをぼうつと眺めていました。

僕自身は、いろんなことを確認するために、動かなければという一心でしたが、それができずに茫然自失になる人もいるのです。僕の感覚とは違う人がたくさんいるということは、僕が思っているよりもはるかに深刻な状況なんだと感じました。物を見てもあまり感じなかったけど、人を見ることで、ようやくそういった状況を感じる事ができたわけです。

途中で車が通れなくなったので、歩くことになりました。家は倒れ、中に取り残されている人もたくさんいる。けがをしている人は目につく範囲で応急処置をしながら帰りました。

自宅に着いて、家を見た瞬間、すぐに復旧するのは無理だなとわかりました。家屋はかろうじて建っていましたが、柱は

目の前の人を診ることの大切さ

——地震発生からどのように過ごしてこられましたか。

曲がり、家の前のコンクリート塀が倒れて玄関にも入れない。余震もまだ頻繁に起きていて、いつ倒れてもおかしくない状況でした。その状況を目の当たりにした時、しがらみがなくなり、家のことはもう気にしなくていいんだと思ひました。また、僕の家には二フトリがいて、そのことも心配でした。しかし、庭に行ってみると、みんな無事だったんです。強い揺れにストレスを感じただろうと思ひたのですが、そのような見えません。むしろ、目の前のやらなければいけないことをやれと二フトリに言われているような気がして、「よし、やろうか」という気持ちになれました。それからは、その時々で出会う人たちとタッグを組んで協力しながら活動を続けて、今に至っています。

いろんなことが怒濤のように起こり、それに対してみんなで知恵を出し合いな

この紙面では、さまざまな人をおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ

がら、何とか乗り越えてきた感じなので、細かくは覚えていません。

ただ、この診療所には病院としての機能が何もなく、高度な医療を必要とする人はヘリコプターで運んでもらわなければいけません。どこに搬送の必要があるかを調べ、搬送の順番を決め、どの場所から搬送し、搬送する場所によろうに行ってもらうかなどを消防の方や看護師さんたちと相談しながら決めてきました。最初の6日間くらいは、そのような形で、結果的に30人以上をヘリで運んでもらいました。

——避難所におられる人ばかりではなかったのですか。

そうですね。この町には自主避難所を含め、20カ所ぐらいの避難所があり、この東陽小・中学校に地域で一番大きな避難所が設置されました。市役所の支所や消防署など、町内のいろいろな活動の拠点となり、診療所も置きましたが、そこにじつとはしていません。ヘリで運ばなければいけない重傷の方は、介助しないと移動できないですから。

当初は電話も通じなかったもので、状況を知るには直接足を運ぶしかなく、とにかく重傷者の漏れがないかを看護師さんたちと見て回って、情報収集していました。1カ月ほどは、それが巡回みたいな感じになっていました。

——地震後、医療の現場において難しかった点がありますか。

そうですね、現代医療は、データを取り、それを分析してカテゴリーに分け、そのカテゴリーによって治療方法を決めていきます。しかし、医療器具が整っていないからそのデータを取ることができない。

その人の身体に直接触り、話をし、どこに問題があるのかを感じ取らなければいけません。

ただ、それが悪かったとは言えないと感じています。データを取ると、そのデータを考慮して、それに引き寄せられてしまいます。でも、本当はデータを意識する必要はなくて、目の前の人がどんな状態なのかを直接感じなければいけないのです。

僕は普段からそれが大事だと思い、心がけていたのですが、地震によって凶らずもこのような状況になり、患者さんを診る感覚が鋭くなっていくのを感じました。データを見てしまったら、それにとらわれて、悩んでいたかもしれません。そういったことがなかったのはかえって良かったのかもしれない。

——地域の医師として、現在大事にされていることはありますか。

今回の地震で、医療には人に不安を与えてしまう側面があるのを感じました。例えば、ここ数年は、感染症のこともあり、ちよつと熱が出るとみなさんとても不安になります。でも、本当は不安になる必要はなくて、熱が出たしんどければ休めばいいんです。不安は、生きる力を著しく落とします。だから僕は、不安をなくしてみんなに元気になってもらうにはどうすればいいかということに大事にしています。

不安や恐怖といった「陰」の感情には、瞬発力はあると思うんです。例えば山でクマに遭遇した時には、逃げようとしてすさまじい力を発揮します。そういう瞬発的な力は強いですが、それを持続するのは不可能です。不安な時に使うエネルギー

ギーって、一気に消費されてしまうので、使い切ると動けなくなるんですよ。車のターボを利かしているような感覚で、エネルギーが切れるのも早い。そういう力が必要な場面もあるけれど、そればかりでは生きていきません。

一方で、「陽」の感情は、ゆるやかにエネルギーを生み出し、それを使いながら、途切れることなく活動を続けられます。

たぶん、どっちも必要なんです。一気にエネルギーを消費して何かを成し遂げようとするのも必要だし、そうではなくて、じわじわと力を出し続けるエネルギーも必要。ただ、こういった災害の場合

私たちにできる支援とは？

——まだまだ生活は困難な状況だと思いますが、大石さんはこれからどんな支援が必要だと思われませんか。

何か安心できる気持ち、ここでやっていける見通しみたいなものが必要なのではないのでしょうか。

それはたぶん、支援する人が、この町の人たちでやっていけるよというメッセージを送り、この町の人たちがそれを感じ取れること。外からの支援がずっと受けられるわけではないですし、別のところで災害が起これば、次はみんなそちらに集中して、ここは過去のことになってしまいます。だから最終的には、地元の間が自分たちの力で生きていけるようになるんじゃないでしょうか。

そのためには、早くここで自立した生活をみんなが送らなきゃいけない。そのために必要なのは、自力で何とかしようと



町野町で開催された桜フェスの様子(4月7日)

する気持ちになることだろうと思うんです。

は、スパンが長いですよ。これから何年もかけて復興していかなければいけません。その場合は、不安感が生む瞬発力だけでは成し遂げることができません。震災直後の数日間なら不安感で何とか乗り切ることができても、これから何十年とかかる復興は無理なんですよ。

だから僕は、今エネルギーを使い切るようなことをしちやだめだと思います。今やらなければいけないことは、何かわくわくできるようなこと、生き生きと生きられる感覚を持ちながら、この難局に向かっていくこと。その気持ちを持つことが大事だと思います。

だからそういった、応援のメッセージを発信することが必要ではないでしょうか。それを道路の復旧で感じる人もいれば、全国の子どもたちからの寄せ書きで感じる人もいます。だからこれっていいものはないんです。

でも、そうやって気にかけてくれている人がいるんだと、みんなが思うことができれば、きつとすぐ力になるんですよ。

——能登半島地震を経験された中で、大事だと思われることがあれば教えてください。

そうですね。今は便利なものに満ちあふれていますよね。何か不都合を感じても、お金さえあれば、手に入れることができます。でもそれは、逆に何か工夫しようとする機会を奪ったり、本来ある力を発揮できなくなってしまうことにもなりかねないと思うのです。でも、大きな災害に遭ってしまった時には、わが身一つで何とかしなきゃいけない。それを想定すると、何か前もって準備することより、手放していくことの方が大事なんじゃないかなと思います。大自然の中に一人投げ出されても、生きていけるという自信を持つことができれば、物はなくても、生き残るために大事な心構えがおのずと身につくのではないかではないでしょうか。

実際、「保険証やお薬手帳はありますか」と聞いても、「家の下敷きになって取れません」という人は結構多いんです。そう考えると、準備すべきものは物じゃない。

もしかすると、物を準備するとか、物に対するこだわりとか、そういったものが一番必要のないことなのかもしれません。

通信員リレーレポート

いまを生きる 第248回

聞法の中につながる輪

東北教区 山形第4組 高橋昭彦さん(76歳) 了廣寺門徒



「山形同朋の会」にて意見を述べる高橋さん(右奥)



高橋昭彦さん (山形教会にて)

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しします。

「真宗門徒として大事なことは聞法である」そうおっしゃる高橋昭彦さん。高橋さんは岩手県のお生まれで、結婚を機に山形県にお越しになりました。お連れ合いのご実家に移住。そのご実家は代々お手次寺の世話人をされていることから、高橋さんも50代の頃から境内の清掃や年中行事のお手伝いなどでお寺へ通わ

れる。その頃はまだ自分が真宗門徒だという意識は薄かったそうだ。そんな高橋さんに真宗門徒の自覚が芽生えたきっかけは、2007年に親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け奉仕団のため上山し、みなで帰敬式を受式されたことだという。その後、ご住職の勧めで門徒会員となり、聞法会には欠かさず参加。現在は教区門徒会長の役も務め、教区事業にも携わっておられる。

また「山形同朋の会」の会長も務めている。会の活動は、主に山形県内陸部のご門徒が集まり、月1回山形教会で聞法会を行っている。高橋さんは、この会の運営に尽力され、清掃やおみがきなどの準備

も担当し、永らく教会を支えている。会についてうかがうと、「お手次寺を超えてみな遠慮なく話し合える関係性を築けている。コロナのため、一時参加者が減ったが、これからはさまざまな人にも声をかけて会を盛り上げていくのが自分たちの役目だ」と熱心に語られる。

また、「お節介かもしれないけど、自分でいいと思ったことは会員にも勧めているんだ」と微笑みながら話された。「同朋新聞」を読んでいる人が少ないと感じ、「私も身近な門徒から『同朋新聞』を配って勧めたい。また、教区内の聞法会や本山の報恩講にも誘い合せて参拝したい」と今後の展望も語ってくれた。

活動熱心な高橋さんは、今春には同朋の会推進講座後期学習も受講された。コロナ下により4年越しの上山となったが「推進員は定年がないから、元気な限り関わりをもつて活動を続けていきたい」と嬉しそうに語る。

東北教区通信員 佐々木智悠

縁 お寺の掲示板 第11回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



光永寺 (九州教区 長崎組) 長崎県長崎市桶屋町33 住職 正木慶彦

別れたくない人と 別れること 居続けたい場所から 離れること その苦しさのおかげで 尊さを知る

「愛別離苦」という仏教の言葉があります。愛する人と別れる苦しみ。これは誰も避けることができません。苦というのは嫌なものです。しかし、その苦があるから私たちは尊さを知ることが出来ます。そして苦も大事だと知るので、それとともに歩いていけるのではないのでしょうか。卒業の季節に合わせ、別れの大切さを込めた言葉を絵とともに掲示しました。

「できることなら親鸞聖人の言葉や先人たちの残した言葉に触れてほしい。でもそれだけを書いたら立ち止まってもらうのは難しい。だから、ここ数年、絵を描きはじめて」と、光永寺住職の正木慶彦さんは語る。文字の大きさや文量などを、通行人の反応を見て徐々に変えていき、立ち止まる人があまりいなくなった掲示板に目を留める人が増えてきたそうだ。

「自分がたまたま通りかかった通行人だとすると、文字だけじゃ立ち止まらない。でも、絵が描いてあると不思議に思っただけよく見てみようと思う日があるかもしれない。街中に広告が溢れる中で、目を留めてもらおうというのはとてもハードルが高い。お寺も時代に合わせて、掲示板に興味を持ってもらう工夫に努めないといけない。」

わかりやすく噛み砕いた言葉と目を引く絵を添えることにより、門徒さんだけでなく、門前を通るすべての人に教えを届けたいという願いが光永寺の掲示板に込められている。

九州教区通信員 奥村誓至

国宝『坂東本・教行信証』の概要と特徴を丁寧に紹介



浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の主著「教行信証」。その中でも聖人が晩年まで手元に置き、手を加え続けた自筆の書「坂東本」(国宝)とはどのような書なのか。豊富な写真や図を用いて紹介する。

はじめてふれる 坂東本・教行信証 三木 彰円 (著) B5判 80頁 / 定価: 1,650円(税込)

「自筆」が物語る親鸞聖人の息遣い、思索の跡にふれる



真宗門徒のお勤めとして親しまれる「正信偈」の全文をオールカラーで掲載したものです。朱書きや墨で塗り消してからの修訂など、自筆でなければ見ることのできない思索の跡をとおり、聖人のおこころにふれる一冊。

親鸞聖人の自筆にふれる 正信念佛偈 B5判 56頁 / 定価: 1,320円(税込)

東本願寺出版 おすすめ本

ご注文は 東本願寺出版 TEL 075-371-9189

東本願寺御用達 日下念珠店

〒600-8174 京都市下京区烏丸通花屋町下ル 電話 (075) 351-6325 フリ-FAX 0120-89-5255 定休日: 日曜日

親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号からは天親について、3回にわたってたずねてまいります。



ひかり

七高僧と聖徳太子

第6回

天親菩薩



釈迦の教法おおけれど
天親菩薩は

ねんごろに

煩惱成就の

われらには

弥陀の弘誓を

すすめしむ

〔高僧和讃〕
『真宗聖典 第二版』五九〇頁

【現代語訳】

お釈迦さまがお説きになった教法は大変多いもの。天親菩薩は丁寧にあらゆる煩惱が具わってしまっている私たちには、阿弥陀仏の誓願に応じるよううながしてくださっている。

自分で決められない

天親菩薩に先立つ龍樹菩薩は、ひかりを確かめる道筋には難行や易行などさまざまなものがあることを示しました。

親鸞聖人が長くおられた比叡山でも、学ぶべき教えも修すべき行も、非常に豊富に用意されています。そのため、かえって、次に何をしたらよいかわからずに途方に暮れる修行者も少なくなかったようです。慈恵大師良源(九二二〜九八五)は、そういう修行者のために、「自分で決められないのならば、次に何を学び何を行ずるのかを観音さまに決めてもらえばよい」とアドバイスしました。これが現在の「おみくじ」の起源とされています。

私はどのような者なのか

自分で選べないのは、自分がどこに立って何を求めているのか、自分ではわかっていないからです。

天親(ヴァスバンドウ、世親)菩薩は、四〜五世紀のインドで活躍しました。天親菩薩の著作は、現在にまで伝わっているものだけでも極めて多く、「千部の論主」とも称されています。中でも、『仏説無量寿経』を注釈した『無量寿経憂婆提舍願生偈』は、『浄土論』や『往生論』とも呼ばれています。天親菩薩は唯識

思想の大成者ともされます。唯識思想とは、真実がどのようなものであるのかよりも、私ができるような者であるのかを丁寧に確かめていこうとするものです。

煩惱成就

天親菩薩は、私たちの特徴は「煩惱成就」であるといえます。「煩惱成就」とは「煩惱がすべて具わっている」という意味です。「煩惱具足」ともいわれます。

煩惱とは、私を煩わせ悩ませるものです。自分には煩惱がないと思っている人はほとんどいないでしょう。しかし、どういった煩惱にどのような煩わされ悩まされているか、わかっている人もほとんどいません。いろいろなうまくいっていないけれども、何が問題なのかよくわからない。これが私たちの実状です。何が問題なのかわからなければ、どう解決すればいいのかもわかりません。

そもそも、阿弥陀仏の誓願というひかりは、問題も解決法もわかっていない者にも確かに届いています。ところが、自分の姿をわかっていない私たちは、暗中摸索するばかりりません。天親菩薩のもっとも重要なお仕事は、そういった私たちの姿を示した点だと、親鸞聖人は注目したのでした。



あきら わけみ
采翠 晃
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職

特集



令和6(2024)年 能登半島地震 ～発生から半年、被災地の思い～

「令和6年能登半島地震」から半年が経過しました。復興の形を模索して苦悩する中、真宗の教えに生き、能登の地を大切に思う方々の姿があります。そして、その方々とともに現地のニーズに沿ったボランティア支援がなされています。今、現地の方々の思いをお聞きました。

現地の方々の“今の思い”



能登教区第10組門徒会長
(珠洲市蛸島町)
うえの たけもり
上野 武守さん(79)

私は奇跡的に生き残り、仏様が私に“もう少し生きて、子どもや孫たちに教えを相續していけ”と言われていたんだと強く感じました。家の解体でボランティアの支援を受け、全壊した自宅の中からご本尊をはじめ、大切な仏具が無傷で見つかり、仏縁と感謝の念に打ち震えています。過去の災害でも、今回の地震でも、さまざまなボランティアの存在にとても助けられました。



地盤が歪んだ能登町の道路
(5月撮影)



津波によって倒壊した珠州市の家屋(4月撮影)



大規模火災が発生した輪島市(5月撮影)



土砂崩れが起きた輪島市道路
(5月撮影)



専行寺住職
(珠洲市宝立町)
はるおか さとる
春岡 悟さん(61)

津波の被害で屋内に入ることができず、外にご本尊を安置しお勤めをした。



震災後、家族を含めて生活が一変しました。この地域に残っているご門徒の方から、避難所から戻ってきてすぐ、「お参りに来てほしい」との声が寄せられ、お内仏の代わりに三折御本尊を安置し、お勤めを行いました。今は本山からお預かりした災害用御本尊をお渡しする取り組みをしながら、この地でお念仏の声が途絶えないようにご門徒方と一緒に守っていきたいと思っています。

被災地では、炊き出し、物資の支援、本堂・庫裡や家屋の片付け・清掃、傾聴活動など、多くの方々による懸命な支援活動が続けられています



能登教区ボランティア委員会代表
ふくだ しょうじゅう
福田 正充さん(39)

「お念仏の灯を絶やしてはいけない」という思いから、能登教区内有志僧侶が結集し、炊き出しや被災寺院・門徒宅の片付け、ご本尊や仏壇の救出、介護施設での法務等さまざまな活動を行っています。ある時は法衣、又ある時はエプロン姿と目まぐるしい毎日ですが、「こんな時だからこそお参りしたい」という声を励みに、息の長い活動をしていきたいと思っています。



信念寺衆徒
(輪島市門前町)
ふじい としお
藤井 敏夫さん(74)

子どもや高齢の方の話を聞く傾聴ボランティアの活動をしています。「藤井さんが来るのを待っていたよ」と涙を流す方がおられます。みんな疲れ果てて本当は涙も出ないのに…。その涙から温もりを感じ、語り合っって大事なことなんだと思います。「ともに生きる」とはどういうことなのか、ということをつくづく考えています。

宗派の支援体制



「宗派ボランティア支援センター(さいびしょうじゅう 精舎)」では、宗派関係者のボランティア活動に対して、活動及び経費の支援を行っています。

詳しくはこちら



宗派においては、被災地支援のため、宗務役員のパ遣(5月7日現在 第29次)を行っています。今後もボランティア支援の取り組みなどについては、宗派災害情報公式Xなどで随時お伝えしてまいります。

宗派災害情報公式X



「能登に帰ることを一度は諦めかけたけれど、地元に戻った時に、ボランティアや本山職員の方の支援を受けました。やはりこの場所で門徒さんを待ちたい」。本堂も庫裡も全壊し、途方に暮れていたあったあるご住職からのお言葉です。能登の復興はまだまだこれからです。みなさんも、何かできることから支援を始めてみませんか？

宗派では引き続き「令和6年能登半島地震」に対する救援金の勧募をしております。皆さまの温かいご支援をお待ちしています。

【救援金口座】郵便振替口座番号 00920-3-203053
【加入者名】真宗大谷派 ※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

救援金総額 **168,486,175円** (2024年5月7日現在)

大谷暢裕門首夫妻が被災地をお見舞い



3月21日から22日にかけて、大谷暢裕門首、サチカ夫人が被災地の能登教区を訪問し、お見舞いを行った。

21日は、七尾市の済美精舎(能登教務所)にて、教区の代表者から被災の状況を聞く懇談が行われ、教区関係者約80人が参加した。

懇談では、暢裕門首から挨拶があり、「全国の真宗門徒が心を一つに寄り添うことが大切」と述べられ、1日も早く開法の場と安らかな日々が回復するようお願いを伝えられた。次に大谷婦人会会長を務めるサチカ夫人からは、「このような時だからこそお念仏を心の拠り所に、ともにお念仏するお仲間が心を寄せ合い、支え合っていることを強く念じています」と挨拶がなされた。その後、完忠能登教区会議長から教区の状況報告の後、教区の住職や門徒6人が地震発生時の状況や現在の様子などを報告。門首夫妻はそれぞれのお話に傾きながら、真剣な眼差しで耳を傾けられた。

最後にあらためて暢裕門首が「みなさんの光となっている能登の念仏を途絶えさせないように力をあわせて探し続けていくことが大事だ」と声を詰まらせながら言葉をかけられ、「みなさんのお支えによって、毎日本山でお仕事をさせていただいている。私もみなさんとともにこれからの復興にできる限り力を尽くしていきたい」と語られた。



22日はまず奥能登ボランティアセンター(能登町)を訪問。奥能登ボランティアセンターの運営は宗派有志が行っており、当日は山吹允氏(第7組正覺寺)からボランティアセンターの活動内容や寺院所在地である輪島市の被害状況についての説明があった。

次に、住職が犠牲となった廣榮寺を訪れ、坊守や、前任職らと面会し、お見舞いの言葉をかけられた。その後、前任職の案内で土砂に押しつぶされた本堂などを視察。地震発生時の様子などを聞き、時折涙を浮かべながら本堂跡に向かい手を合わせられた。

続いて、大谷派の門徒が多く避難生活を送られている若山小学校をお見舞いし、避難者と懇談。最後に大谷婦人会支部のある正福寺を訪問し、震災により本堂から庫裡へ移動されたご本尊に手を合わせた後、被害を受けた本堂の様子を視察した。



レポート

大谷修鍵役 ご命終 一宗派葬を執行



3月30日午前5時20分、大谷修鍵役が96歳でご命終された。

大谷修鍵役は、故大谷瑩潤氏(第23代彰如上人の弟)のご子息(第26代大谷暢裕現門首の従叔父)。法名は信明院釋闡廣。1960(昭和35)年3月に鍵役に就任され、真宗本廟の両堂のご奉仕や、各別院の報恩講などにおける御参修にも精力的にご出向され、生涯を通じて門首の儀式執行の補佐に尽力された。

山科別院長福寺(京都市山科区)にて4月1日から9日まで弔問が受け付けられ、9日には通夜勤行を執り行った。

ご葬儀は宗派葬として、4月10日、午前10時から山科別院において執行され、約150人が参列した。勤行後、執行責任者の木越渉宗務総長が挨拶に立ち、「我々真宗大谷派僧侶のつとめは“仏祖に仕え仏祖のお給仕をする”ことにある。信明院鍵役は、まさにその範を示されたご一生であったと受けとめている。大恩ある信明院鍵役のたどった足跡を、一つひとつ丁寧にたどっていきたい」と述べ、ご遺徳を讃えた。

お東さんガイド

東京教区 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃事業 「子どものつどい in 真宗会館」開催

4月2日、春の陽気が心地よい中、真宗会館(東京都練馬区)において「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃事業 子どものつどい in 真宗会館」が開催された。当日は引率者を含め約180人が参加し、126人のスタッフ・職員とともに法要をお勤めし、笑顔のあふれる一日となった。

法要前には、稚児衣装を着た子どもたちによる供花が行われ、6人の小さな僧侶が出仕する中、参加者全員で「正信偈」をお勤めした。法要後には、田村晃徳氏(田尻徳風保育園園長)より法話をいただいた。その後、あそびのブース、食事のブースが設けられ、参加者たちはそれぞれのブースで楽しんだ。つどいの最後には、花園一美氏(東京教区圓照寺)作成の脚本をもとに音楽朗読劇「絵本を読む」が上演された。



10年前に開催された「子ども御遠忌」の参加者が今回の「子どものつどい」のスタッフとなって活躍しており、長い歩みの中で行われてきたこと、そしてこれからの歩みが促されていると感じるつどいとなった。

お知らせ

『真宗聖典 第二版』の概要と特徴を紹介する動画を配信!

『真宗聖典 第二版』編纂の取り組みや、特徴を動画で紹介しています。また、『真宗聖典 第二版』の本文検索もできるようになった「真宗聖典検索サイト」の便利な機能もお知らせしています。ぜひ、ご視聴ください。

東本願寺公式YouTube 検索



読者のお便り



亡き夫との思い出

北海道札幌市
星野 洋子 (73歳)

今年の「同朋新聞」2月号の特集に、重要文化財に指定された境内建物の写真が載っているのを見て、「あーこも見たね」と、お内仏の前で声を出して亡き夫に語りかけました。

1995年、私は、お手次寺の敬徳寺のご住職に誘っていただき、夫と門徒の方々とともに、初めて真宗本廟奉仕に参加しました。

またその際、夫と2人で帰敬式も受けました。同朋会館に宿泊して講義を受けたり、境内の建物を案内していただいたり。経験することすべてが初めてのことはばかりで驚きながらも、御影堂・阿弥陀堂などの建物の大きさに感動したことを覚えています。

2001年に夫は亡くなりましたが、その後も、真宗本廟奉仕に亡き夫の面影を求めて数回参加しました。

私も高齢になりつつありますが、また東本願寺にお参りに行きたいと願っています。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihongani.or.jp FAX/075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区丸太通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」

住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

各地の公演日程 2024年9月11日[水]▶17日[火] 大阪日本橋 国立文楽劇場

公演日	開演	会場	公演日	開演	会場
6月23日(日)	14:00	福井 フェニックス・プラザ 大ホール	7月11日(木)	18:30	宮崎 宮崎市民文化ホール 大ホール
6月24日(月)	14:00	金沢 金沢市文化ホール	7月12日(金)	18:30	都城 都城市民総合文化ホール 大ホール
6月25日(火)	14:00	富山 富山県民会館	7月17日(水)	14:00	福山 ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ
6月26日(水)	14:00	高岡 富山県高岡文化ホール	7月19日(金)	14:00	
6月27日(木)	14:00	上越 上越文化会館	7月20日(土)	11:00 15:00	広島 上野学園ホール
6月28日(金)	14:00	新潟 新潟県民会館 大ホール	7月22日(月)	14:00	鳥取 鳥取市民会館
6月30日(日)	14:00	下関 下関市民会館 大ホール	7月23日(火)	14:00	神戸 神戸文化ホール 中ホール
7月 1日(月)	14:00	山口 KDDI 維新ホール	7月29日(月)	14:00	仙台 東京エレクトロンホール宮城
7月 2日(火)	14:00	福岡 ももちパレス 大ホール	7月31日(水)	14:00	帯広 帯広市民文化ホール 小ホール
7月 3日(水)	13:30	北九州 J.COM北九州芸術劇場 大ホール	8月 1日(木)	14:00	千歳 北ガス文化ホール
7月 4日(木)	14:00	大分 iichiko総合文化センター グランシアタ	8月 2日(金)	14:00	小樽 小樽市民センター マリンホール
7月 5日(金)	14:00	佐伯 さいき城山桜ホール 大ホール	8月 4日(日)	14:00	旭川 旭川市公会堂
7月 7日(日)	14:00	日田 パトリア日田 大ホール			
7月 9日(火)	14:30	中津 中津文化会館 大ホール			

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年 記念
前進座特別公演
民草と共にありて命の平等を説き
道を照らした親鸞聖人と
その妻 惠信尼の
道しるべと救いの物語

後援 浄土真宗本願寺派 真宗教団連合 公財仏教伝道協会

お申込み・お問合せ: 前進座 0422-49-2633 (平日10時~17時土日祝休)
公演の情報はこちらから

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間/3月~10月:5時50分~17時30分
11月~2月:6時20分~16時30分

晨朝(おあさじ)

【場所】阿弥陀堂及び御影堂
【時間】毎日7時~

晨朝法話

【場所】御影堂
【時間】毎日7時30分頃~

真宗本廟法話

【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常 10時10分~/13時10分~

速夜日(12・27日)13時10分~
御命日(28日)9時30分~
※その他、時間・会場を変更する場合があります。

参拝接待所ギャラリー

【時間】9時~16時
「親鸞聖人の御生涯」(常設展)開催中
「非戦と平等の源流をたずねて」開催中(~6月27日)

詳しくは → 東本願寺 検索



しんらん交流館

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひお立ち寄りください。
開館時間/9時~17時 休館日/毎週火曜日

6月の定例法話

【日時】毎日14時~(12日・27日は10時~)
※休館日は休会。その他、都合により休会する場合があります。

6月の東本願寺日曜講演

【時間】9時30分~11時
【講師】6月16日 國賀 由美子氏(大谷大学教授)

公開講演会

【日時】6月19日(水)18時~19時30分
【会場】大谷ホール
【聴講料】550円
【講師】中川 恵一さん(医学者・がん専門医・東京大学大学院医学系研究科特任教授)

詳しくは →

浄土真宗ドットインフォ 検索



2024年 真宗本廟奉仕に参加してみませんか

真宗本廟奉仕を機にぜひ帰敬式を受式ください

真宗本廟中学生・高校生奉仕団

8月7日(水)~9日(金)

【講師】金石 潤導氏(北海道教区開正寺住職)
【定員】30人
【対象】中学1年生から高校3年生まで
【参加費】中学生9,000円/高校生13,500円、米2kg(1升4合)または米代1,300円

真宗本廟おみがき奉仕団

〈2泊3日〉10月30日(水)~11月1日(金)
〈1泊2日〉10月30日(水)~31日(木)

真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・お問い合わせ 同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185



入館中はお仲間や他団体の方々とカフェ(無料)でほっこり

今月号の『同朋新聞』を読んで、クロスワードパズルを完成させよう!

プレゼント付

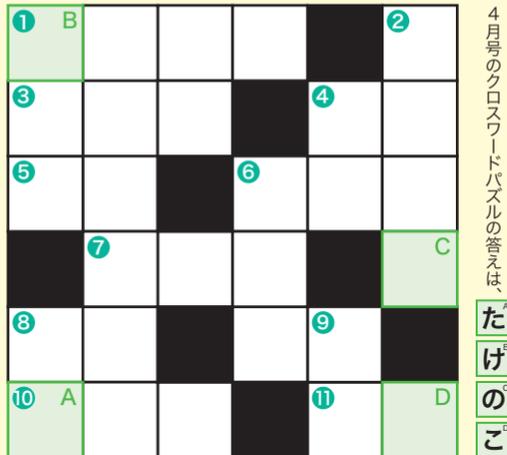
タテのカギ

- 1 「読者のお便り」今月のタイトルは「亡き夫との〇〇〇出」です。(7面)
2 天親菩薩は、私たちの特徴は「〇〇〇成就」といいます。(5面)
4 「今月の法話 如是我聞」今月は、梶原敬〇〇さんが執筆しています。(1面)
6 東本願寺〇〇〇とこころの相談室075-371-9280(5面)
8 「ご案内」真宗本廟おみがき奉仕団とは、真宗本廟報恩講を迎える〇〇〇たつて、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。(8面)
9 『親鸞聖人の自筆にふれる正信念仏偈』は、自筆でなければ見ることのできない思索の跡をとおして、聖人のお〇〇ろにふれる一冊です。(4面)

ヨコのカギ

- 1 「縁一お寺の掲示板」今月は、九州教区通信員〇〇〇〇誓至さんが執筆しています。(4面)
3 「現在を生きる」今月は東北教区通信員佐々木と〇〇〇さんが執筆しています。(4面)
4 天親菩薩は、四~五世紀の〇〇〇で活躍しました。(5面)
5 真宗本廟奉仕に参加しましょう一言葉では説明できない〇〇〇の力がここにあり(4面)
6 今月号の特集は「令和6年能登半島地震~発生から半年、被さ〇〇〇思い~」です。(6面)
7 「ご案内」6月27日まで、参拝接待所ギャラリーにて「非戦と平〇〇〇源流をたずねて」が開催されます。(8面)
8 「人間といういのちの相」今月のタイトルは「被災地〇〇〇きる医師として」です。(2・3面)
10 「人間といういのちの相」大石賢齊さんは、石川県輪島市町野町地区の唯一の開業医として〇〇〇ら医院の院長をつとめておられます。(2・3面)
11 「縁一お寺の掲示板」では、お寺の掲示板に〇〇〇られたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。(4面)

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう! 6月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!



4月号のクロスワードパズルの答えは、

たけのこ

答え A B C D

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

読者のこえ

- 3月号を読んで
◆「縁一お寺の掲示板」掲示板の言葉に勇気づけられました。就活諦めずに頑張ります。(20代女性)
◆避難所まで『同朋新聞』届きました。本当にありがとうございます。(珠洲市60代女性)

チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の締め切りは7月10日(水)(当日消印有効)です。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます!

はがきと同様に必ず左記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞6月号クロスワード応募」と入力の上、higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。

応募はコチラ!



〈ご注意〉◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

真鍮製仏具向け洗剤

《みぞきれいピカっと》

目詰まりキレイに! 泡沫で溝や彫刻細部の汚れ除去!



洗剤の改良により、より強い効果が発揮できるようになりました。特に石灰化した研磨剤の目詰まりには強い威力を発揮します。是非、報恩講等ご法要の前のお磨きにご利用ください。

50ml入(スプレー).....1,760円
200ml入(スプレー).....5,830円
詰め替え用2000ml入.....41,800円

※価格は税込です。



合掌の心と共に195年 お仏壇・仏具はやっぱり京都!

◆お仏壇・仏具の事なら何でもお気軽にご相談ください。

☎0120-37-8585



株式会社 若林 工芸舎

株式会社 若林 佛具製作所

文化財修理 社寺内装・外装工事

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入 築地店 / 札幌店 / 仙台営業所 / 福岡営業所

若林仏具製作所オンラインショップ https://www.wakabayashi-jiin.com/



荘厳仏具から内装・納骨壇まで、全国・宗派対応いたします。お買い物にお得なクーポン配布中!

●ホームページもぜひご覧ください https://www.wakabayashi.co.jp/

東本願寺ホームページで『同朋新聞』がお読みいただけます

同朋新聞

検索